

## 国文学研究資料館報

第49号

平成9年9月

## 臨池所感

松野陽一

本年度から館長を務めることになりました。市古、小山、佐竹の歴代館長の存在感が大きかっただけに気が重いことですが、転換期の実務処理には現場働き上げの人間にも役割りはあろうかと引き受けた次第です。

開館から二十五年が経ち、五月で二十六年目に入りました。この間、調査された書誌カードは二十四万点、撮影されたフィルムは十四万点を越えています。研究者の大半が便利さを感じるようになるのは、フィルムで三十万点を越える辺りかと思いますが、一点一点を求めている訪書旅行の他の手段の無かった頃を知る身には、現状でもかなり利便の得られる機関になっているように思えます。

ここまで来るには、所蔵者の寛大な理解や、調査員の尽力に支えられたことは無論のことながら、館員の日常の地道な努力の集積に拠る所の小さくなかったことに想いを致しているところです。多様な多様な書誌情報や研究情報の整理とそれを利用可能にする作業、これら全てについてのコンピュータ面からのバックアップ等々、開館以来続けてきた基本業務は今後とも営々と継承されて行くことでしょう。

この基幹的な仕事に、この二、三年、新しい変化が現われ始めました。佐竹前館長のリーダーシップに拠る所大きく、私の仕事の第一段階はその方向を定着させることにあると思います。その「変

次	頁
臨池所感 松野陽一	1
よしなご 佐竹昭廣	3
文献資料部年報報告 新藤信二	4
研究情報部年報報告 立川文彦	6
整理閲覧部年報報告 大西廣	9
公開講演会のお知らせ	10
在外資料紹介	11
文献紹介⑨	12

化」について少し触れておきますよう。

本年度から、近代の文献資料の調査・収集・研究を担当する「第四文献資料室」を開設することになりました。古代から近代までの日本文学資料を一貫して研究の対象とする体制がやっととれるようになったわけです。といっても、近代百三十年の膨大な資料、多様なテーマを最初から一気に、一室で扱うわけには行きません。二十六年前に、古代・中世・近世の文献資料を対象として出発した時に既に備わっていた『国書総目録』も近代にはあるわけではありません。そこでわれわれは、長期的な展望に立ちながらも、当面、明治初期、二十年辺りまでを中心にした効の上る仕事に着手したいと思っています。従来の仕事との継続性に配慮しつつ、新境地に立ち向うつもりです。

この「変化」は無論歓迎すべき

第三回シンポジウムコンピュータ国文学	13
第二十二回国際日本文学研究会	13
評議員他名簿	14
依頼	17
利用者へのお知らせ	18
人事異動	19
平成9年度休学季会	20

事柄ながら、当館にとつては革命的な事件です。「物としての書物」を対象にするのを第一義としますから、洋装活字本が登場して写本・木版本と混在する明治初年（ひいては近代全体）は、従来通りの調査・収集・整理を踏襲するわけにはいきません。現在、十二月十九日までの予定で「明治期の新収本」の展示をしているので、ぜひ見ていただきたいのですが、この過度期の書籍の形態は実に多種多様で、装丁、料紙、活字のどれをとつても「洋装活字本」などと

## 特別共同利用研究員の受入れ

平成十年度から、当館での研究指導を希望する大学院生を、選考の上受入れることになりました。対象は、全国の国文学・史学およびそれに関連する分野を専攻する大学院生です。

来年一月頃、応募案内を各大学院に送付します。御覧下さい。担当 庶務課共同利用係

電話〇三三七八五七二一

は単純化できない、書誌学の未開拓領域なのです。基本方針は本年度一杯をかけて策定しますが、今のところ、近代資料は、従来の慶応四年以前の典籍資料（国書総目録・古典籍総合目録収録の範囲の典籍）とは別立てにした方がよいのではないかと考えています。関連性・総合検索性に配慮しつつも、書誌カードのフォーマットも別にし、フィルムの撮影・整理・管理、購入原本の管理、冊子体目録からコンピュータ・プログラムも別にする。具体的には従来の「マイクロ資料目録」「和古書目録」に明治以降のものを混入しないという具合です。開館以来重ねてきた慶応四年以前の文献資料の整理には完結性がある、それを尊重したい気持ちと、両者の統合的利用はコンピュータによって容易であることなどの理由によりますが如何でしょうか。館内外の御意見をいただきたいと思っています。

当館は平成七年度からCOE（卓越した研究拠点）の指定を受け、研究・事業の様々な面で活況を呈し始めました。同じ年に開設された情報メディア室にはNITの研究所から丸山教授が着任され、目を見張るばかりの勢いで、インタ

ーネットを通じての「電子資料館」実験を進めています。（詳しくは館報48号の同教授「国文学研究資料館ホームページ」を参照してください）。著作権・所有権など解決困難な問題がからむので、まだ実験の段階にとどまっていますが、二十一代集の本文検索とその一部の原本画像表示や、連歌・演能記録のデータベース公開等、意欲的に事業を進めているのです。

大型コンピュータを用いて、当館の様々な事業をオンライン化し、文学研究の内容に即した開発に実績を積み上げてきた情報処理室の安永教授以下スタッフの仕事と相俟って、人文系研究機関の先端を行くところまでできています。

何よりも嬉しいことは、なかなか合わなかった情報学研究者と国文学研究者の呼吸が一つになってきたことで、高度に共通した発想によるデータベースの開発に期待していいと思います。

【国書総目録】と【古典籍総合目録】の書誌情報をリンクさせた「著作典拠ファイル」のCD-ROM化も公開日程に入ってきましたが、これに更に当館が蓄積し、しつつある目録や調査・研究情報をも加算してゆく「電子図書館」化

の方向も、各部の協力が日常化する中で現実化しつつあります。なお、本文データベースも二十一代集に続いて、毎年一作品ずつ完成させ、来年度からCD-ROM化する予定になっています。

昨年度から国際研究室が開設されました。従来も外国人研究員を招待していましたが、これで恒常的に当館の計画による招聘が可能になりました。その第一号、昼食抜きで夕方バンを囃るだけ、の猛勉強ぶりで話題を呼んだエライユ先生が三月に帰国された（何とその直後にフランス・ジャポノロジ・叢書「貴族たち官僚たち」へ平凡社を刊行されました）後、フランス国立高等研究院のロータモ

ンド教授が着任され、唱導文芸の研究を進められています。これとは別に、COE予算の方では、心敬の連歌研究のミシガン大学エスペランサ氏が帰国された後、史料館にオハイオ州立大学のブラウン氏が着任されました。また、コレージュ・ド・フランスの日本学高等研究所との学術協定による短期招聘で、コビイ、キブルツの両氏が七月に来られたのに次いで、モクレール氏が十月に来館されます。これだけ多くなると、研究室のや

りくりの四苦八苦ですが、研究交流の効果に換えられないのは無論のことです。なお、当館からは岡教授が十一月に四週間の予定でパリの日本学高等研究所での講義に出かけますし、山崎教授にも短期調査に行つて貰いました。

以上、増設された三室に関わることだけを書きました。出版物や展示・講演のこと、「年鑑」など恒常業務の問題、大学院教育や「国文学」の名称、移転などなど将来構想に関わる諸点、何よりも重要な「研究」に関する問題（画期的な共同研究や研究書が続々出ています）、これらについては順次まな板に載せて行くつもりです。

当館には細川家下屋敷以来の名残りの池があります。「花散りてこそ見るべかりけれ」（源俊賴）の印象（や、暗いでしょうか）で眼を癒してくれた花吹雪の池の面も、いつしか青粉繁茂して緑濁、時折横切る鳥影を映す時か、三彩の鱗紋を飄す魚影の点ずる折にだけ蘇生する季節に移っていました。その夏の日も過ぎて行くこうとしています。この荒池にも秋風吹って漣を立ててくれるのでしょうか。

（館長）

## よしなしごと

佐竹昭廣

昭和九年十月五日、永井荷風は、親交のあった笹野堅から「室町時代小歌集」（『宗安小歌集』）の複製を贈られて一読、三首の歌謡を自らの日記に書き留めた。

なくはわれ涙のぬしはそなた  
二人きくとも憂かるべし月斜に  
入暁寺の鐘  
鳥は哀を知らばこそ人の仕業  
の鐘ものうき

新潮日本古典集成『宗安小歌集』（昭和五十七年）の凡例に、「現在原本の所在が明らかでないので、笹野氏の複製によった旨、記されている。」

戦後五十年を経て、この原本（巻子一巻）が国文学研究資料館に永住の処を得たこと、国文研にとっても大果報であった。

笹野堅と成瀬正勝の両氏は、昭和九年六月十日、はじめて偏奇館を訪ねた。この件は、荷風の日記にも記録されているし、成瀬氏も「偏奇館訪問」と題する当日の回想を荷風没後活字にしている。

荷風の日記は、大正六年九月十

六日から昭和三十四年四月二十九日、即ち死の前日に及ぶ。大正・昭和の交、東京に生まれ育った者には、とりわけ懐かしい同時代史である。

例えば、私は昭和二年十月十九日に生まれた。「断腸亭日乗」には、「十月十九日。曇りて風なく静かなる日なり。午前執筆（中略）帰途、新大橋より川筋通の汽船にのり、沿岸の光景を眺望しつつ永代橋に到り電車にて家に帰る。即興の句に曰く、秋の雲雨ともならで海の上。」

「昭和拾年正月元日。雨霽れて一拭ふが如く暖気四月に似たり。三時過ぎ、雑司が谷墓地に往き先考の墓を拝す」。この日は、松野陽一氏誕生の佳節である。

昭和十五年二月十八日は中学校入学試験の第一日目だった（ト思ウ）。さて荷風の「日乗」。「二月十八日。日曜日。西北の風吹きて寒し」。完全に忘れ果てていた西北風であるが、突如思い出した。その日は体育の試験もあり、百メートル走らされた。時計を持った体育

の教官が旗を振ったら走る。真正面から強い風が吹きつけて走りにくかった。東から西へ、やっとこせと走った。その日その時から今の唯今まで、一度も甦らなかつた記憶である。

昭和十九年十一月、B29の東京空襲、銀翼の大編隊を紺碧の高空に仰ぎ見たのは、「日乗」によれば、十一月二十四日である。その日は旧友と自転車で府中市あたりを走っていた。自転車を跳び下りて傍の畑に飛び込んだ。

昭和二十年三月十日と五月二十五日、東京大空襲の記録は、夜空を焦がして降り注ぐ焼夷弾の暴威を再現して鮮烈。戦後も空襲の夜の夢はよく見た。闇の中を天から雨あられと降ってくる無数の鉄の油筒など防ぎようがない。

国文研の館長室は応接室作りであって、調べものなどは何もできない広間であったが、時間を分断されても差し支えないような類いの読書は多少できた。「断腸亭日乗」の再読。故杉浦俊介氏御寄贈の杉浦梅潭関係資料を契機とする「学海日録」の通読。「国訳一切経」の拾い読みなど、寸暇潰しの余禄であった。

三月末、待望の年季が明け、歎

呼の聲に送られて勇躍、館を後にした。以後半歳、私の日常は最晩年の「断腸亭日乗」の記事に似て来た。

四月A日 午後東洋文庫。  
四月B日 午前巖並書店。  
午後東洋文庫。

四月C日 午後東洋文庫。

四月D日 午前巖並書店。  
午後東洋文庫。

「疎竹亭日乗」の退屈な反復も、もうしばらくは続くのであろう。

「断腸亭日乗」昭和二十三年一月元日。「荷風散人年七十」の感懷を詠んだ歌が朱で加筆されている。

七十になりしあしたのさびしさを誰にや告げむ松風のこゑ

颯々たる「松風のこゑ」に耳を傾けることができただけでも、荷風は幸せであった。東京オリンピックの頃、環状七号線の内側に囲いこまれた殺風景きわまる世田谷代田も、戦前はもと代田村中原の旧名にふさわしく、武蔵野の面影を随所に残していた。小高い雑木林と竹林。畠と野原のなだらかなうねり。「野原」「原っぱ」という単語そのものが既に死語となった。こういう時、荷風は必ず「往時を追想して悵然たり」と書く。

（国文学研究資料館前館長）

# 文献資料部事業報告

新藤 協三

平成九年度の調査収集事業は、五月二十日の収集計画委員会の議を経て、六月三日の調査員会議（総会）で具体的打合せを行ない、作業は既

平成八年度国文学文献資料調査・収集の概況

## 一、調査

は、外村南都子客員教授の講演「早歌と道行―菅原道真の旅を中心に―」があつたほか、「二本」のはなし三題のタイトルでのシンポジウム（パネリスト落合博志当館助教授、和田恭幸当館助手、久保田啓二広島大学文学部助教授、当館併任助教授、司会山崎誠当館教授）を行ない、書物、書誌に関する各自の見識を述べた後、活発な質疑が繰返された。

平成八年度は、本年三月末までに一二三箇所（の所蔵資料九四一七点を調査した）。

北海道・東北地区（順不同、敬称略一部省略。以下同じ）

北海道教育大学附属図書館（札幌校）・伊達市開拓記念館・八戸市立図書館・弘前市立図書館・盛岡市中央公民館・香齋稲荷社・秋田県立秋田図書館・本荘市立本荘図書館・東北大学附属図書館（狩野文庫）・仙台市市民図書館・仙台市博物館・酒田市立光丘文庫・西川町教育委員会・米沢市立米沢図書館・初瀬川文庫

北海道教育大学附属図書館（札幌校）・伊達市開拓記念館・八戸市立図書館・弘前市立図書館・盛岡市中央公民館・香齋稲荷社・秋田県立秋田図書館・本荘市立本荘図書館・東北大学附属図書館（狩野文庫）・仙台市市民図書館・仙台市博物館・酒田市立光丘文庫・西川町教育委員会・米沢市立米沢図書館・初瀬川文庫

当館の調査収集事業は調査員の方々のご協力を得て、年間目標調査七千点以上、収集五千点以上を目指して行なわれ、現在調査二十三万六千点余、収集十四万一千点余に及んでいる。今年度から当部に、近代分野の資料を調査収集する第四文献資料室の設置が認められ、目下、幕末から明治期にわたる資料に対する、調査収集の具体的な方法を検討中である。

茨城県立歴史館・茨城大学附属図書館・筑波大学附属図書館・館林市立図書館（秋元文庫）・観世文庫・東京芸術大学附属図書館・東京芸術大学附属図書館・脇本文庫・宮内庁書陵部・法政大学能楽研究所・明治大学附属図書館（毛利文庫黒川本・三井文庫・東京大学総合図書館・東京大学文学部国文学研究室・東洋文庫・

東京都立中央図書館（東京資料）・尊経閣文庫・横浜開港資料館

館・青山会  
中国・四国地区  
鳥取県立図書館・大鼓谷稲成神社・岡山大学附属図書館（池田文庫）・ノートルダム清心女子大学附属図書館・広島大学附属図書館・広島市立中央図書館・光藤益子・三原市立図書館・専徳寺・山口県立大学附属図書館・山口大学附属図書館（棲息堂文庫）・岩国敬古館・徳山市立中央図書館・西門寺・萩市立図書館・鎌田共済会図書館・総本山善通寺・愛媛県立図書館・大洲市立図書館・徳島県立図書館（森文庫）・丈六寺・高知県立図書館（山内文庫）

茨城県立歴史館・茨城大学附属図書館・筑波大学附属図書館・館林市立図書館（秋元文庫）・観世文庫・東京芸術大学附属図書館・東京芸術大学附属図書館・脇本文庫・宮内庁書陵部・法政大学能楽研究所・明治大学附属図書館（毛利文庫黒川本・三井文庫・東京大学総合図書館・東京大学文学部国文学研究室・東洋文庫・

茨城県立歴史館・茨城大学附属図書館・筑波大学附属図書館・館林市立図書館（秋元文庫）・観世文庫・東京芸術大学附属図書館・東京芸術大学附属図書館・脇本文庫・宮内庁書陵部・法政大学能楽研究所・明治大学附属図書館（毛利文庫黒川本・三井文庫・東京大学総合図書館・東京大学文学部国文学研究室・東洋文庫・

東京都立中央図書館（東京資料）・尊経閣文庫・横浜開港資料館

柳川古文書館・祐徳稲荷神社（中川文庫等）・長崎大学附属図書館・長崎県立長崎図書館・島原図書館（松平文庫）・松浦史料博物館・福江市立図書館・長崎県立対馬歴史民俗資料館・白杵市立白杵図書館・杵築市立図書館・佐伯市教育委員会・琉球大学附属図書館

茨城県立歴史館・茨城大学附属図書館・筑波大学附属図書館・館林市立図書館（秋元文庫）・観世文庫・東京芸術大学附属図書館・東京芸術大学附属図書館・脇本文庫・宮内庁書陵部・法政大学能楽研究所・明治大学附属図書館（毛利文庫黒川本・三井文庫・東京大学総合図書館・東京大学文学部国文学研究室・東洋文庫・

茨城県立歴史館・茨城大学附属図書館・筑波大学附属図書館・館林市立図書館（秋元文庫）・観世文庫・東京芸術大学附属図書館・東京芸術大学附属図書館・脇本文庫・宮内庁書陵部・法政大学能楽研究所・明治大学附属図書館（毛利文庫黒川本・三井文庫・東京大学総合図書館・東京大学文学部国文学研究室・東洋文庫・

東京都立中央図書館（東京資料）・尊経閣文庫・横浜開港資料館

州立ベルリン図書館・州立ミューンヘン図書館・ヴァチカン図書館・州立リンデン民族学博物館・ポルトハイム・シュテューティンク民族学博物館・グーテンベルク印刷博物館・ベルリン国立図書館・ライプツヒヒ大学

茨城県立歴史館・茨城大学附属図書館・筑波大学附属図書館・館林市立図書館（秋元文庫）・観世文庫・東京芸術大学附属図書館・東京芸術大学附属図書館・脇本文庫・宮内庁書陵部・法政大学能楽研究所・明治大学附属図書館（毛利文庫黒川本・三井文庫・東京大学総合図書館・東京大学文学部国文学研究室・東洋文庫・

茨城県立歴史館・茨城大学附属図書館・筑波大学附属図書館・館林市立図書館（秋元文庫）・観世文庫・東京芸術大学附属図書館・東京芸術大学附属図書館・脇本文庫・宮内庁書陵部・法政大学能楽研究所・明治大学附属図書館（毛利文庫黒川本・三井文庫・東京大学総合図書館・東京大学文学部国文学研究室・東洋文庫・

東京都立中央図書館（東京資料）・尊経閣文庫・横浜開港資料館

州立ベルリン図書館・州立ミューンヘン図書館・ヴァチカン図書館・州立リンデン民族学博物館・ポルトハイム・シュテューティンク民族学博物館・グーテンベルク印刷博物館・ベルリン国立図書館・ライプツヒヒ大学

図書館・フィレンツェ大学図書館・ブルベラー家(ケルン)・ハレ大学図書館・ウルバニア大学図書館

右は海外科研究費による調査

## 二、収集

本年三月末までに左記の五三箇所  
の所蔵資料五四〇一点を収集した。

## 北海道・東北地区

弘前市立図書館・盛岡市中央公民館・仙台市民図書館・酒田市光丘文庫・福島県立図書館・初瀬川文庫

## 関東地区

茨城県立歴史館・筑波大学附属図書館・早稲田大学図書館・宮内庁書陵部・東洋文庫・東京都立中央図書館(東京史料)・蕨経閣文庫

## 中部地区

新潟大学附属図書館(佐野文庫)・糸魚川市歴史民俗資料館・富山県立図書館(中島文庫)・宮崎文庫記念館・石川県立図書館(李花亭文庫)・長野県短期大学附属図書館・上田市立図書館(花月文庫)・上田市立図書館(花春文庫)・柏屋別荘・静岡市立芦沢鍾介美術館・名古屋市鶴舞中央図書館・名古屋市蓬左文庫・名古屋大学附属図書館(神宮寺文庫)・愛知県立大学附属図書館・大須文庫・名古屋博物館・新城ふるさと情報館(牧野文庫)・西尾市教育委員会(西尾市立石額文庫)

## 近畿地区

正教蔵文庫・夢窓庵文庫・京都府立総合資料館・蘆庵文庫・陽明文庫・陽明文庫(特殊本)・百々御所文庫・大和文華館・郡山城史跡柳沢文庫保存会・南方熊楠邸保存顕彰会・青山会

## 中国・四国地区

ノートルダム清心女子大学附属図書館・佃家(福山市)・岩国徴古館・益田家・総本山普通寺・四国大学附属図書館(凌雲文庫)・高知県立図書館(山内文庫)

## 九州地区

祐徳稲荷神社(中川文庫等)・臼杵市立臼杵図書館・杵築市立図書館

## 海外

カリフォルニア大学バークレー校  
平成九年度調査収集計画

本年度は、調査二六箇所(海外を含む)九五五〇点、収集六四箇所(同)五八〇〇点を目標として、既に調査収集を進めている。その内、中央区立京橋図書館(東京)を始めとする一〇箇所の新規調査、仙岳院(仙台)など十一箇所の新規収集が含まれている。

## 海外資料の調査・収集

本年度は、ドイツの州立リンデン民族学博物館、州立ベルリン図書館

マンハイム市立美術館、ブルベラー家、及びイタリアのキオソーネ美術館、ヴァチカン図書館、ローマ国立図書館、サレジオ大学等の海外科研究費による調査が予定され、カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館本(継続)の外、新ルンパン大学人文科学系図書館本の収集も予定されている。

## 第四文献資料室

本年度から、明治以降の近代分野の資料の調査、収集を担当する第四文献資料室(第四室)の設置が認められた。第四室の開設に伴って、従来の客員部門は第五文献資料室(第五室)へと名称が変更された。

## 第五文献資料室

本年度は客員教授として白百合女子大学文学部外村南都子教授が着任した。併任助教授は、前期は広島大学文学部久保田啓一助教授、後期は山形大学教育学部山本陽史助教授。それぞれの専門分野から、文献資料部の書誌学的研究や調査収集業務に参加していただいている。

## 国際研究室

平成七年度まで外国人研究員と位置づけられていた客員部門が、平成八年度から文献資料部の所属となり、名称も国際研究室と改められた。平成八年度はフランス国立高等研究院

エライユ教授が、九年度は同研究院ロータモンド教授が着任、それぞれ専門分野とかわって平安記録文学の研究、説話文学と唱導の研究に従事している。

## その他

調査員地区会議は、東北地区は十月十七日に仙台で、近畿地区は十月二十四日に京都でそれぞれ開催を予定している。

本年度も人事異動があった。松野陽一第二室教授が館長に就任した後を承けて、山崎誠第一室助教授が第二室教授に昇任、新たに第一室に浅田徹助教授が着任した。また、リサーチアシスタントとして寺島徹君(早稲田大学大学院在籍)が新規に入した外、今年度から設置された研究支援推進員として成田恭子・御正牧子両氏が採用された。『調査研究報告』第十八号が六月三十日付で刊行された。

(文献資料部長)



# 研究情報部事業報告

立川 美彦

## 情報資料室

第二十回国際日本文学研究集会を、十一月七日、八日に開催した。参加者数は一三一名、そのうち海外からは五五名であった。

昨年の参加者は一一六名、一昨年は九二名であったので、この集会在年々認知度を高めてきていることが知られる。

九件の研究発表が行なわれ、公開講演は平岡敏夫群馬県立女子大学長の「王朝のヘタ暮れ〜芥川龍之介「羅生門」を視点として」、フランシヌ・エライユ当館客員教授の「平安時代貴族社会における作文」であった。

また、パリ第七大学教授のジャックリーヌ・ビジョー氏を招待研究発表者として招いたのが、新機軸であった。

新聞情報掲載の国文学関係記事収集は順調に進捗。館報も四七号、四八号を刊行した。

情報分析室の最大の業務である

「国文学年鑑」平成七年度版の編集を完了し、予定通り平成九年三月末に刊行した。

主要項目の各収載件数はほぼ次のとおりである。

◇雑誌・紀要・論文集所載論文件数

一一、四八四

◇新聞所載論文件数

四二

◇学会一覧数

四一

◇学会研究発表一覧数

六八六

◇新指定文化財数

一四

◇平成七年度文部省科学研究費等

四六六

交付数

八二

◇受賞一覧数

三七

◇計報

二、三六九

◇単行本一覧数

一、一八五

◇収載雑誌紀要一覧数

一、一七二

◇翻刻複製一覧数

八、七八四

◇執筆者一覧数

八、七八四

ページ数は前年度平成六年度より一二ページ増の八四八ページ、

販売価格は一一、三〇〇円から一

一、三三〇円と若干増大した。

年鑑作成にかかわる重要課題として、過去二年の本報告であげた

ように、平成十二年度に予定され

ている大型計算機撤廃にあわせたダウンサイジング計画に対応するため、従来一年間のずれを伴って実施されていた年鑑編集業務と国文学論文目録データベース作成の業務を一本化し、データ初期入力からコンピュータ上で処理するための同時作成システムを開発する必要が生じた。現在その方向に向かって、分析室・データベース

室・処理室・整理閲覧部と共同で基本システムの策定に入っており、平成八年度には、入力したデータ

を一定の分類基準によって自動的に配列させるデータ自動配列システムの一部を実験的に作成した。

データベース室

平成八年度よりデータベース室の事業は四本柱となった。第一は

室の創設以来の主事業である国文学論文目録データベースのデータ追加搭載、第二は平成三年度より

データベースの構築を進めている古典人名データベースの推進、第

三は平成八年度にスタートした原本テキストデータベース事業である。そして、第四に、それら全体

に関連するデータベースの利用を応援する事業である。

国文学論文目録データベースと

しては、平成八年度は、新規一分として平成六年の分（レコード

件数二一、一三一件）、遡及として昭和四十三年から昭和四十九年

の七年分（同三四、三七七件）を追加搭載し、その結果、平成九年四

月一日からのデータベース検索にかかる総件数は二〇〇、〇〇〇件

をわずかながら超えた。

古典人名データベースは、件数の多さを追及する方向から、次第

に利用頻度の高い人物記録のデータベース化を考える段階に入りつ

つあり、公卿補任からのデータ抽出や系図からのデータ採取に取り

組んでいる。もとより、この難度は相当に高く、成形が見通せる段

階になるまでに三年以上はかかるものと考えられるが、古典人名デ

ータベースは平成十年度の取り組みでいちおうのゴールとし、以後

は、公開へのスピードを上げていくことにしている。

原本テキストデータベースは、勅撰二十一代集のデータベースが、

二十一人の各歌集の専門家による監修という作業を終え、絵入源氏

物語はテキストの初期入力を精力的に進めた。いずれも館蔵の版本

を底本にしており、提供可能な段階に入れば流れは滑らかであろうと考えている。

データベースサービス業務は、具体的には情報処理室の努力によって、サービス時間の拡張、インターネット経由での検索の実現があり、実際にその影響は大きく利用者も伸びた。その便法が広く受け入れられるよう広報や具体的な案内が必要であったが、予算等の制約もあって平成八年度も何も実施できていない。

平成七年度に第一回を開催した「シンポジウム コンピュータ国文学」は、平成八年度には、その第二回として、安永尚志教授が研究分担者であり、テキスト班の代表を務める科学研究費の重点領域のシンポジウムと合体して、十月十七・十八日の両日に、機械振興会館のホールにおいて実施した。詳細は前号の館報に安永教授が執筆しておられるので参照されたい。

#### 情報処理室

情報処理システムの運用・運転を除く平成八年度の事業は、以下のように実施した。

#### (1) 新規システムの導入

平成九年二月、情報システムの

更新を行った。主システムとして日立製作所 M-860/60K を、副システムとしてサンマイクロシステムス Ultra Enterprise3000 を導入した。また、マルチメディア実験用システムとしてサンマイクロシステムス Ultra2/2200 を、図書館管理システム用として日立製作所 3650 RMS を導入した。館内各部館には、LAN 接続された、デスクトップ型パソコン 30 台、ノート型パソコン 50 台、目録業務用パソコン 2 台、ネットワークプリンタ 16 台を配置し、直結型プリンタも 18 台配置した。

また、計算機室のフリーアクセスを旧来のものから新規に敷設し、信号ケーブル・電源ケーブルを最適配線して、敷設後の作業効率と情報の信頼性を確保した。更に、電源容量を確保するため計算機室及び館内の電源工事も同時に行われた。

電子図書館サービス開発用として、一般設備費でディスクアレイ装置一式を、また、バイオニア製 CD-ROM チェンジャーを導入した。

#### (2) 情報サービスの向上

情報システムの更新に伴い、館

内端末のユーザインタフェースをマイクロソフト Windows95 に統一し、ユーザレベルの操作性向上と機能強化を図った。また、Windows95 の標準機能の外に、表計算ソフト Microsoft Excel、ワープロソフト Microsoft Word、ワープロソフト 太郎を導入してユーザ環境の強化を図った。

#### (3) 通信環境の整備

情報システム更新による I/O BASE 機器導入に伴い、研究情報部で使用していた I/O BASE-T のサブネットを I/O BASE-T に置き換えた。

情報処理室、計算機室、端末室にて実験運用している。また、更新システムが早くも本格的に業務に浸透し始め、業務における電子メール・Web ブラウザ等の比重が高まったため、更に安定した通信環境を提供すべく、通信機器の維持管理を行った。

#### (4) 業務システムの運用

マイクロ資料目録、研究論文目録、古典籍総合目録、本文のデータベースなどの運用機能拡充などを行い、平常通りの運転を実施した。また、資料管理、OPAC、文字セット管理システム等も平常に稼働している。

#### (5) 新規システムの開発

本文データベース等の研究開発を継続して行い、実験用システムを実現した。インターネット上での公開を視野に含めた「奈良絵本」マルチメディアデータベースプロトタイプシステムの開発をワークステーション上で行った。また、画像データとテキストとを動的・有機的にリンクさせた「奈良絵本」画像データベースシステムに、機能の拡張・操作性の大幅な見直しを加えた。

#### (6) 国際接続

前年度に引き続き、主に、科学研究費により、欧州各国から当館データベースへの接続実験を行った。また、各国におけるネットワークの現状調査を行った。

#### (7) システム運用管理体制

運用管理体制及び業務の見直しを行った。

#### 情報メディア室

情報メディア室は、国文学研究のためのマルチメディア型統合処理の研究を目的に平成七年度に新設された。インターネットを活用して、自分の研究室や書斎に居ながらにして目録情報を検索したり、原本資料の電子化画像や本文資料の電子化テキストを見たり、関連

する資料を次々とたどったりができる「電子資料館システム」の研究を進めている。また、電子資料館で提供するデータベース内容を構築するためのシステムの研究も進めていく。

本年度の進捗状況は、以下のとおりである。

#### (1) 電子資料館のプロトタイプ

本システムはいわゆる電子図書館システムの一分野であるが、国文学・国史学を対象とするには独自技術の開発も必要である。特に不定型で多種多様な情報の扱い、膨大な量の画像データベースの扱い、目録情報・原本画像・本文テキスト間の相互リンク付けなどを研究している。多種多様な情報の扱いにはマルチメディア技術を、情報間の関連を表現するにはハイパーリンク技術を、ネットワーク経由で情報を共有化し検索閲覧するためには、インターネットのWorld Wide Web (WWW) 技術を活用している。

みなどを実現した。本電子資料館実験の一部内容は、本館ホームページ (<http://www.mil.ac.jp>) からアクセスできる。二十一代集(データベース室の科研費研究成果)の例では、本文の全文検索や原本画像表示が簡単にできて好評である。

(2) 新データベースシステムの開発

「電子資料館」にとって一番重要なのはそこでサービスする内容(コンテンツ)であるので、コンテンツ作成の容易化が重要である。従来型のデータベースでは、国文学の不定型情報は扱いにくい。そこで、複雑に関係しあったマルチメディア情報を簡潔に記録し検索できるオブジェクト指向型の新データベースシステムの開発を進めている。

#### 研究開発室

(1) 新規開発事業として、後藤祥子客員教授のもとで、平安後期歌書のDB化を企てた。その意図は、近時関心の高い歌論・歌学・歌語研究の基礎資料として、形態的枠組みを越えた語彙検索に資する所にある。すなわち、歌集・歌論書・歌合等の諸形態を縦断的に取

り扱い、説の先後、変遷の推移などを複層的に把握しようとするものである。このジャンルは、テキストの公刊が比較的進んだとはいえ、総索引は未開拓で、歌語および歌論用語の検索に不便なくらいがあった。本文DBはこうした欠を満たすものとして期待できる。八年度はまず、藤原清輔関連作品DBを企画し、家集・白河尚歯会和歌并序・奥義抄・袋草紙・和歌一字抄・初学抄・参加加判の歌合本文を対象とした。館外から山田洋嗣・中村文・黒田彰子・浅田徹の諸氏の協力を得た。

(2) 平成六年度から三年計画で、中川博夫助教を中心に館内外からの参加者を得て万葉集データベース(DB)の研究開発に取り組んだ、その最終年度に当たる。二十一代集と共通のシステムを用い、西本願寺本を底本とした「標準態」(通行字体・正訓)と「原態」(原字体・傍訓)の完成を目指したが、制作過程の経験に鑑み、予見される使用時の実効性等を勘案して、「標準態」中に傍訓を盛り込むという方針の転換をはかり、データの入力と校正修正等を実行した。この過程で蓄積された万葉集DBの

方法に関する知見の質と量は、有効性を期待し得る水準に達した。〔経過〕数度に亘って開発研究小会議および作業グループの会合を開き、具体的問題点とその対策を議論しつつ、併行して校正・修正作業を継続した。九年一月二十四日に最終の開発研究会議を開催し、今後の作業継続の方途や完成後のファイルの管理また将来の構想等について議論し、現作業グループを中心に作業を継続して完成を目指すことや将来に互る当館の積極的活動を求めること等を確認した。

\*

平成八年度、研究開発室(客員部門)には、藤原鎮男客員教授のあとに後藤祥子客員教授(日本女子大学文学部教授)を迎えた。また、七年度末に慶應義塾大学附属研究所道文庫助手として転出した情報分析室佐々木孝浩助手の後任に、江戸英雄雄手が着任した。

年度末、併任を解除された研究開発室の中川博夫助教は、在任中、万葉集データベース開発に邁進された。事業の前途はなお遙かなものがある。

(研究情報部長)



# 整理閲覧部事業報告

大西 廣

平成八年度の当部の業務（資料の受入、整理、保存、利用サービス及び参考業務、公開講演会の開催、展示等）は、次のとおりであった。

人事異動では、七月一日付でこれまで長い間、情報サービス係長が併任してきた参考普及係長に、和田玲子事務官（受入係から）がなった。これに伴い、中村スミ子事務官が情報管理係から受入係へ異動した。また、八月一日付で技術補佐員（研究支援推進員）一名が採用になり、情報管理係に配置された。

前回、当館から初めて参加した日本資料専門家欧州協会会議は、ドイツ・ヴュルツブルク（シーボルト博物館）で開かれ、キャンベル室長と鈴木受入係長が参加した。今後も継続的に参加し、海外の日本資料所蔵機関との交流を図っていきたい。

(1) 情報サービス室  
資料の受入  
資料受入数は、マイクロ資料

(2) マイクロ資料の整理  
マイクロ資料四、九五二点（二五文庫）について整理し、年度版（一九九六年）データを作成した。これにより、累積書目数は一五四、〇八一点に達した。

(3) 図書資料の整理  
活字本・影印本は二、一六五冊を整理するとともに、遡及入力作業を引き続き行い、五、三六五冊を入力した。その結果、活字本・影印本の蔵書数の約四〇％が当館OPAC及び学術情報センター目録システムから検索可能となった。なお、写本・版本は二七七冊を整理した。

(4) 逐次刊行物の整理  
一、六八六タイトルの受入を行い、所蔵タイトルは三、八三九誌となった。また、「学術雑誌総合目録和文編」へのデータ提出のため、学術情報センター目録システムへ三、六四七タイトルの和雑誌のデータ入力作業を行った。

(5) 古典作品典拠ファイル作成事業  
読みの付与、著者コントロール作業等を継続し、約八、〇〇〇件のデータを作成した。累計で約三九一、〇〇〇件となり、これをもって「国書総目録」からの著作データ入力作業が完了した。

(6) 古典籍総合目録作成事業  
データ作成では、データソース（所蔵目録）からデータシートへの転記作業を約一六、〇〇〇件行い、これまで累積した転記済みデータの中から約一〇、〇〇〇件を点検し、パンチした。同時に、典拠コントロール作業を行い、約一八、〇〇〇件の書誌データのコントロールを完了した。また、作成の対象となるデータソースの調査を進めた。

(7) 閲覧業務  
年間開室日数は、二二六日、来

館利用者数は、九、二八四人（一日平均四一人）、新規登録者は、一、七九九人（一日平均八人）で、登録者の累計は、三六、七三一人に達した。閉架資料の閲覧点数は、二四、〇七五点（一日平均二〇七点）であった。また、文献複写は、二九、二三八件（一日平均二九二件）で、電子複写（含むリーダープリンター）二五九、四六四枚、紙焼写真一四、一七九枚、ポジフィルム二、六八四コマを作製した。

(8) 相互利用  
郵送による文献複写・相互貸借の受付は、複写二、四五五件、貸出二六件九二冊であった。他機関への依頼は、複写四二件であった。

(9) 資料の保存  
当館所蔵原本（写本・版本）のマイクロ化事業は、約二一、〇〇〇コマ、一七二点の撮影を実施した。保存用ネガフィルムの外部保管委託は、平成六年度収集分八七三リールを追加委託し、総計三五、六四三リールとなった。また、二二八個の映作成を行った。

なお、例年どおり、四月末から五月初めにかけて資料のくん蒸、三月末には蔵書点検を実施した。

## (10) 影印叢書の刊行

平成六年刊行の『好色一代男』に続く「国文学研究資料館影印叢書」の第二弾として『金春禅竹自筆能楽伝書』（汲古書院）を刊行した。

## (二) 参考室

春期の特別展は、史料館の所蔵史料により「近世文字社会のひろがり」のテーマで開催し、同様のテーマの公開講演会を開催した。これは国文学と歴史学との接点となるテーマを選んで企画したもので、史料館と協力による開催は、初めての試みであった。

また、秋期の公開講演会（第46回）は、山梨県立文学館との共催（山梨大学後援）で「万葉集と甲州」のテーマにより、同館で開催した。これまで公開講演会の講演録として夏期公開講演会の記録をまとめた「国文学研究資料館講演集」を刊行してきたが、今回から、装いを新たに、テーマ別編集による「古典講演シリーズ」を刊行することになり、その第一冊として『万葉集の諸問題』（臨川書店）を刊行した。

## (1) 参考業務

日常業務として、参考質問の受付・回答に従事し、参考図書の特

実と二階閲覧室の参考開架図書の維持・管理にあたった。

## (2) 公開講演会

国文学の普及業務として、次のとおり公開講演会を開催した。

・第44回（5月17日、当館）

「近世私文書の世界」森安彦（史料館長）、「近世の農民日記」高木俊輔（史料館教授）、「近世村落文化の構造—文字文化と非文字文化—」高橋敏（国立歴史民俗博物館教授）

・第45回（6月28日、当館）

「歌語から見た万葉集」森朝男（フェリス学院大学教授）、「都市と万葉集」古橋信孝（武蔵大学教授）、「東歌を読む」佐佐木幸綱（早稲田大学教授）

・第46回（10月12日、山梨県立文学館）

「春日昌預とその時代」飯田文弥（山梨大学非常勤講師）、「甲斐近世の歌人たち—春日昌預を中心として—」吉田英也（元山梨県立図書館長）、「廣瀬本万葉集あれこれ」神堀忍（関西大学教授）

## (3) 展示

特別展示、常設展示は、次のとおりであった。

## ○特別展示

・春期特別展「近世文字社会のひろがり」（5月13日～24日）

ろがり」（5月13日～24日）

## ○常設展示

・第64回「和書のさまたま」（6月10日～9月6日）

・第65回「臼杵藩吉田家の文学」（9月24日～12月19日）

・第66回「平安朝物語」（1月13日～4月25日）

（整理閲覧部長）

## 所蔵資料統計

（平成9年3月末現在）

資料種別		点数	冊（リール）数
マイクロ資料	マイクロフィルム	135,405点	29,517リール
	マイクロフィッシュ	16,000点	55,106枚
	紙焼写真本		62,060冊
図書（古書及び新刊書）		36,001点	98,377冊
逐次刊行物		3,839誌	128,336冊
寄託資料		964点	4,313冊

## 公開講演会のお知らせ

次の公開講演会は、琉球の文学をテーマに開催します。多数の方の御来場をお待しています。

日時

十二月六日（土）午後一時半～四時半

会場

沖縄タイムス・ホール

沖縄県那覇市久茂地二丁目二番地〇九八（八七六）三二二

テーマ「大和から吹く風—沖縄文学の近世と近代—」

内容と講演者は次のようになります。

○詩人・原忠順の琉球処分

国文学研究資料館助教授

ロバート・キャンベル

○琉球神道記の説話世界

立教大学文学部教授

小峯和明

○近世沖縄の和歌

沖縄国際大学文学部教授

嘉手苺 千鶴子



## 在外資料紹介

## 米国加州大ロス校所蔵日本古典籍の調査

鈴木 淳

米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校（通称UCLA）は、存外、未知のことながら、近世以前の日本古典籍を千三百点ほど所蔵しており、概して質が高く、稀観本も少なくない。この収集は、昭和三十七、八年に同校が購入した、古典籍愛好家のリチャード・ルド

痾瘡絵も四十枚ほど伝存。後者は地図類が大半で、ほかに絵本、画帖、錦絵の逸品を若干、秘蔵する。これらロス校の蔵書を調査するよう、米国の日本古典籍事情に明るい当館副館長の岡雅彦教授から勧められたのは、平成四年秋のことであった。国際交流基金申請の締切りが迫っていたため、後先も考えずに応募し、翌年夏二箇月ほど渡米、学園町ウエスト・ウッドに滞在して、歩いて十五分の東アジア図書館に通いつめる。当初は同館研究司書の三木身保子氏の要請により、仏書のカタログ化に対する協力、助言を主眼としていた。しかし仕事を進めるにつれ、蔵書が質量ともに相当の水準であることを確信、三木氏と相談の上、同じくは他の二図書館にも手を助け、ロス校の全蔵書についての冊子目録も合わせて作成することとなる。かくして二年目は、同校の招きで二箇月半滞在して調査に専念、さ

らに本年、最終確認のため十日間ほど現地に赴いた。冊子目録は現在、三木氏と校正中で、年度内には刀水書房より公刊の予定である。以下、蔵書中、特に印象に残ったいくつかを上げておきたい。まず仏書では、室町後期写の「最須敬重絵詞」が、詞のみながら真宗独特の古い書風を残し、また「東大寺縁起絵詞」も近世初期の好写本。古版経は雅麗な屏絵で知られる永徳三年刊の春日版大般若経をはじめ、高野版、根来版はた百万塔陀羅尼など、一通りの品揃え。近世装飾経の妙法蓮華経は、家光十七回忌の寄合書き写経の由、東

アジア図書館司書マルラ俊江氏の御指摘で、筆者は日野弘資「古活字本『翻訳名義集』も状態が良く、寛永五年版の整版ともに備わるので、同校の司書中心のゼミで、書誌学について拙い講話を行った際、覆古活字版の説明に現物として大いに活躍した。

医書では、山吹色丸錦艶出し表紙の「解体新書」第一冊は初印本とおぼしい代物で、他に西荘文庫旧蔵の江村復所編「聚方帯図左編」、松岡如庵筆「紹興校定経史証類備急本草図」あたりが目を魅いた。地図類は、高橋景保図の銅版「万国全図」はじめ、細密、美麗な日



加州大ロス校蔵 狂歌摺物より

本全図、地方図、外国図の数々。それに鉄形蕙斎の仮称「大日本鳥瞰図」は、同人による江戸鳥瞰図を髣髴とさせるものがある。

絵画類にはとりわけ垂涎的が多く、菱川師信の良刷「大和絵づくし」以下、西川祐信、鈴木春信、喜多川歌麿、葛飾北斎その他の画師による絵本も豊富である。中でも心魅かれたのは、米国で人気抜群の伊藤若冲の拓版「玄圃瑤華」、日本での伝来極稀な「松花堂画帖」、華美この上ない北尾政演の狂歌絵本「吾妻曲狂歌文庫」、さては発売当時、一世を風靡した歌川国芳の「通俗水滸伝豪傑百八人之一個」五十四枚などで、岡田春灯斎鐫刻の「銅版細画帖」の可愛らしさも捨て難い。また魚屋北溪ほかの狂歌摺物も六十一枚を数え、十返舎一九と歌麿の共作「吉原青楼年中行事」は色刷、墨印ともに伝存。さらに当館ガイドブックの表紙を飾る文晁「日日見喜図」を含む仮称「名画とりく」も珍篇の類か。さても絵本は、在外調査の醍醐味であるが、はや紙幅も尽きたようである。

(文献資料部)

## 訂正

前号(第四八号)に掲載の文庫紹介②「大倉精神文化研究所」の記事について、同図書館の加藤洋氏より現状と異なる点のある旨の御指摘をいただいたので、以下に要点を摘記し、謹んで訂正します。

○名称 大倉精神文化研究所図書館  
○創立 昭和四年建設開始、同七年創立。

○蔵書数 約八万点。

○公開 一九八八年四月四日より一般公開開始。研究員の使用する図書以外は貸出し可。

○閲覧日 火曜日・土曜日。日・月曜日、祝日は休館。

○電話 〇四五・五四二・〇〇五〇

## 『セミナー原典を読む』新刊

当館では「原典講読セミナー」に連動して『セミナー原典を読む』(平凡社)を刊行している。

シリーズ第十冊目として、本年八月に『国文学電子書斎術ーコンピュータに何をさせるかー』(中村康夫著)が刊行された。

これは、国文学者による国文学者のためのコンピュータ利用術を、具体的に示そうとした本である。定価一六〇〇円で市販されている。

## 文庫紹介②6

### 専修大学図書館 菊亭文庫

今出川家は音楽を家業とした家筋で、明治維新に至って菊亭と家名を改めた。同家相伝の文書が昭和四五年に専修大学に入り、菊亭文庫と名付けられたのである。平成七年には「菊亭文庫目録」が同図書館により刊行され、その全貌が明らかになった。

『目録』によると文書の内容は多様で、家業の音楽関係の典籍・記録類を大量に含む(約五百点)のはもちろん、公務に必要な日記・故実書類、書状、また金銭貸借の覚えのような日常生活に関わる書付までを含んでいる。

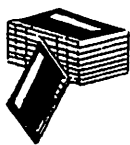
国文学関係書目は九百点近くを数え、当文庫の重要な柱を成している。その中心は今出川家歴代の和歌作品であって、江戸時代の懐紙・詠草類、あるいは歌会記録などが豊富に残っている。その中には清水谷実業や中院通躬、武者小路実陰などの添削が加えられているものがあり、近世和歌の資料として有意義であろう。また、この種の文書群にはよくあることだが、勅撰集を類題化したり、初句でイロハ引きにしたような仮綴本もい

くつか含まれており、古典を解体・吸収するところから詠作、添削を経て暗れの懐紙に定着されるまでのサイクルを窺わせる。通常の歌書は当文庫にはほとんど含まれないが、宝治百首(十五人本、零本)や建保名所百首(零本)などを含む。これらも結題や名所題のサンプルとしての実用的価値により一括されていたのであろう。やはり小さな仮綴本である。

小田急線「向ヶ丘遊園」下車、専修大学行きバスで約十分。日曜休館。菊亭文庫本はすべてマイクロフィルム化されており、容易に閲覧・複写が可能である。原本を閲覧する場合には「特別利用願」が必要。問合せ先は左の通り。

〒二二四一八〇 川崎市多摩東三田二二一 専修大学図書館(生田本館) 閲覧奉仕係  
電話 〇四四一九二二・二二七四  
FAX 〇四四一九二二・二二四九

(文献資料部 浅田 徹)



## 第三回シンポジウムコンピュータ国文学

データベース室長

中村康夫

往年の二つのイベント「コンピュータと国文学シンポジウム」と、「国文学データベース研究集会」が平成七年度から合体して「シンポジウム コンピュータ国文学」となった。今年は早くもその第三回を迎える。

昨年は、科学研究費重点領域の「人文科学とコンピュータ」テキスト班との共催とし、十月に十七・十八の二日間のイベントとして、館外の機械振興会館において実施した。

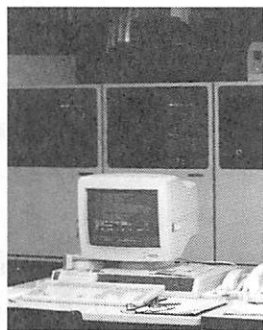
今年は、十二月五日（金）に館の大会議室にて行う。

WINDOWS・OSの普及により、プログラムの世界を意識せずコンピュータを利用する人が増えている今日の状況は、数年前には想像もできなかったほどのユーザ数を抱えている。理数嫌いの人も多い国文学者も、理数を意識しないで利用できるコンピュータの登場の前で、しだいに敬遠する人が減ってきている。不満はいろ

いろあるようだけれど、とりあえず、岩波書店の八代集や角川書店の新編国歌大観のCD-ROMが発売されて、具体的に利用できるモノが現れたことの意味は大きい。

国文学研究資料館も、平成八年度から原本テキストデータベースの事業を進めており、遠からず、次々に成果を公開できるタイミン

グにきている。そういう状況の中での今年のイベントであるので、今年度のテーマは「電子化テキスト展望—その出版と流通を巡って—」として、企画を練っているところである。詳しくは秋頃に案内ができるので、そちらを御覧いただきたい。



## 第21回国際日本文学研究集会のお知らせ

心に

本年度の国際日本文学研究集会は、十一月十三日（木）十四日（金）に、国文学研究資料館で開催されます。

今回は二日目に「境界と日本文学—ジャンルの交流—」というテーマを設けました。

用語はすべて日本語、参加費一〇〇〇円（レセプション参加希望の方は三〇〇〇円を追加）です。

参加御希望の方は、葉書に①氏名（ふりがな）②住所③現職（所属大学等）④専攻⑤レセプション参加希望の有無を書いて、当館情報資料室あて十月二十四日までにお申込みください。

## プログラム

第一日目（午後一時より）

研究発表

○保胤「池亭記」の隠微思想

劉魯平（新潟大学大学院）

○日・韓における伝承のありかた—「サトノハ」説話と「堤上説話」—

金京欄（早稲田大学大学院）

○泉鏡花「蟬の一心」論—自筆原稿との比較を通して—

魯惠卿（筑波大学大学院）

○「二世」から見る、戦前における台湾文学—周金波、河合三良を中心—

唐瓊瑜（武蔵大学大学院）

○「吉里吉里人」における国家形成と主体性の喪失

クリストファー・ロビンズ

（インディアナ大学大学院）

○越境する文学—方法としての由熙—

顧偉良（弘前学院大学助教授）

第二日目（午前十時より）

○谷崎潤一郎『陰翳礼讃』における大衆文化の表象

中根隆行（筑波大学大学院）

○「風の又三郎」における「重ね書き」—昭和十五年日活映画の受容に着目して—

米原みゆき（名古屋大学大学院）

○美術史と科学史、最後の境界を越える

タイモン・スクリーチ

（ロンドン大学助教授）

公開講演

○本文・注釈・絵

今西祐一郎（九州大学教授）

○和歌から説話を見る—唱導史の観点を中心にして—

ハルムート・ロータモンド

（フランス国立高等研究院教授）

## 評議員

任期 平成8年7月1日～平成10年6月30日

秋山 慶 駒沢女子大学文学部教授、東京大学名誉教授

朝尾 直弘 京都橋大学文学部教授、京都大学名誉教授

阿部 謹也 一橋大学長

網野 善彦 神奈川大学経済学部教授

石井 進 東京大学名誉教授

稲賀 敬二 安山女子大学文学部教授、広島大学名誉教授

猪瀬 博 学術情報センター所長、東京大学名誉教授

河合 隼雄 国際文化研究所所長、京都大学名誉教授

久保田 淳 白百合女子大学文学部教授、東京大学名誉教授

興膳 宏 京都大学大学院文学研究科教授

佐々木 高明

佐野 文一郎 (財)内外学生センター会長

竹内 美智子

田中 彰 札幌学院大学経済学部教授、北海道大学名誉教授

堤 精二 お茶の水女子大学名誉教授

濱田 啓介 花園大学文学部教授、京都大学名誉教授

尾藤 正英 川村南女子大学文学部教授、東京大学名誉教授

平岡 敏夫 群馬県立女子大学長、筑波大学名誉教授

水谷 修 国立国語研究所長

吉川 弘之 文部省学術顧問

## 運営協議員

任期 平成8年8月1日～平成10年7月31日

有吉 保 日本大学文理学部教授

岩佐 美代子

大口 勇次郎 お茶の水女子大学教育学部教授

久保木 哲夫 都留文科大教授

杉尾 武 成城大学文学部教授

延廣 眞治 東京大学大学院総合文化研究科教授

野山 嘉正 放送大学教授

日野 龍夫 京都大学大学院文学研究科教授

藤井 譲治 京都大学大学院文学研究科教授

吉原 健一郎 成城大学文学部教授

## 共同研究委員会委員

任期 平成9年4月1日～平成11年3月31日

稲賀 敬二 安山女子大学文学部教授

中野 三敏 九州大学文学部教授

野村 精一 実践女子大学文学部教授

松浦 友久 早稲田大学文学部教授

松尾 章江 相山女学院大学人間関係学部教授

三木 紀人 お茶の水女子大学大学院人文科学研究科教授

## 国文学文献資料収集計画委員会委員

任期 平成8年4月1日～平成10年3月31日

綾村 宏 奈良国立文化財研究所歴史研究室長

岡本 勝 愛知教育大学教育学部教授

佐藤 恒雄 香川大学教育学部教授

名和 修 (財)開聞文庫館長

原田 貞義 東北大学大学院国際文化研究科教授

任期 平成9年4月1日～平成11年3月31日

金田 弘 國學院大学文学部教授

雲英 末雄 早稲田大学文学部教授

柴田 光彦 跡見学園女子大学文学部教授

鶴崎 裕雄 帝塚山学院短期大学長

納富 常天 鶴見大学文学部教授

## 国際日本文学研究集会委員会委員

任期 平成8年4月1日～平成10年3月31日

今西 裕一郎 九州大学文学部教授

谷川 恵一 高知大学文学部教授

平岡 敏夫 群馬県立女子大学長

松平 進 甲南女子大学文学部教授

## 文献目録委員会委員

任期 平成8年4月1日～平成10年3月31日

安藤 修平 富山大学教育学部教授

石川 了 大妻女子大学文学部教授

遠藤 宏 成蹊大学文学部教授

菊地 仁 山形大学文学部教授

木越 治 金沢大学文学部助教授

後藤 祥子 日本女子大学文学部教授

鈴木 日出男 東京大学大学院人文社会系研究科教授

高橋 博史 白百合女子大学文学部助教授

野山 嘉正 放送大学教授

前田 雅之 東京家政学院大学文学部助教授

松村 友規 慶應義塾大学文学部助教授

安田 尚道 青山学院大学文学部教授

## 原本テキストデータベース委員会委員

任期 平成8年5月16日～平成10年3月31日

青木 周平 國學院大学文学部教授

今西 裕一郎 九州大学文学部教授

岩下 武彦 中央大学文学部教授

後藤 祥子 日本女子大学文学部教授

佐藤 恒雄 香川大学教育学部教授

沢井 耐三 愛知大学文学部教授

中山 右尚 鹿児島大学教育学部教授

## 情報システム委員会委員

任期 平成8年4月1日～平成10年3月31日

石塚 英弘 國書館附東京大学図書情報学教授

稲岡 耕二 上智大学文学部教授

井上 如 学術情報センター教授

杉田 繁治 国立民族学博物館第5研究部教授

照井 武彦 国立民俗学博物館資料研究部教授

長崎 健 中央大学文学部教授

永村 眞 日本女子大学文学部教授

中山 雅哉 東京大学大型計算機センター助教授

星野 聰

村上 正志 国立国会図書館総務部情報処理課長

村上 學 名古屋大学文学部教授  
古典籍総合目録委員会委員

任期 平成9年4月1日～平成11年3月31日

加美 宏 同志社大学文学部教授

戸澤 幾子 国立国会図書館古部古典籍課長

雨森 弘行 東京大学附属図書館事務部長

柴田 光彦 跡見学園女子大学文学部教授

堤 精二 お茶の水女子大学文学部教授

益田 宗 国立歴史民俗博物館歴史研究部教授

国文学文献資料調査員

任期 平成9年4月1日～平成10年3月31日

〔北海道・東北地区〕

石川 秀巳 東北大学大学院国際文化研究科助教授

杉浦 清志 北海道教育大学教育学部助教授

竹下 香織 山形女子短期大学助教授

田中 初恵 いわき明里大学文学部講師

谷 真奈美 尚絨女学院短期大学助教授

寺島 恒世 山形大学教育学部教授

中島 和歌子 北海道教育大学教育学部札幌校助教授

吉見 孝夫 北海道教育大学教育学部札幌校教授

〔関東地区〕

井上 泰至 防衛大学校人文科学教室助教授

大倉 浩 筑波大学文学部言語学系助教授

小野 尚志 帝京大学文学部助教授

杉下 元明 東京家政学院大学非常勤講師

杉本 和寛 東京大学大学院人文社会系研究科助手

田中大士 文部省初等中等教育局教科書調査官

土屋 順子 大妻女子大学短期大学部非常勤講師

得丸 智子 明治大学法学部非常勤講師

山下 琢巳 東京成徳短期大学助教授

山本 和加子 実践女子大学文学部非常勤講師

〔中部地区〕

川村 裕子 新潟産業大学文学部教授

木越 治 金沢大学文学部助教授

黒田 彰 愛知県立大学文学部教授

小林 一彦 清足学園短期大学助教授

塩村 耕 相山女学院短期大学助教授

杉田 昌彦 静岡大学教育学部講師

高木 元 愛知県立大学文学部助教授

田中 康二 富士フェニックス短期大学講師

玉城 司 清泉女学院短期大学助教授

戸谷 精三 長野工業高等専門学校助教授

西村 聡 金沢大学文学部助教授

服部 直子 名古屋自由学院短期大学非常勤講師

服部 仁 同朋大学文学部教授

深澤 真二 和光大学文学部助教授

深津 睦夫 皇學館大学文学部助教授

安田 徳子 聖徳学園岐阜教育大学教育学部教授

榊沢 昌紀 中央大学文学部講師

山本 一 金沢大学教育学部助教授

吉川 洋介 愛知県立大学短期大学助教授

和田 道子 中央大学教養部教授

〔近畿地区〕

安達 敬子 京都府立大学文学部助教授

日下 幸男 大阪市立淀川商業高等学校教諭

小林 強 大阪国際女子短期大学非常勤講師

田淵 句美子 大阪国際女子短期大学助教授

千本 英史 奈良女子大学文学部助教授

中西 健治 相愛大学文学部教授

中前 正志 京都女子大学文学部助教授

野口 隆 大阪学院大学経済学部講師

原 雅子 金蘭短期大学助教授

福田 安典 甲子園短期大学講師

藤田 眞一 京都府立大学文学部教授

藤平 泉 神戸女子大学文学部助教授

山本 和明 相愛女子短期大学助教授

山本 登朗 光華女子大学文学部教授

〔中国・四国地区〕

飯倉 洋一 山口大学文学部助教授

稲田 秀雄 山口県立大学国際文化学部助教授

樹下文隆 広島女子大学国際文化学部助教授

久保田 啓一 広島大学文学部助教授

下房 俊一 島根大学文学部教授

杉本 好伸 安田女子大学文学部教授

竹村 信治 広島大学教育学部助教授

田村 憲治 愛媛大学文学部助教授

長谷川 泰志 広島経済大学経済学部助教授

原水 民樹 徳島大学総合科学部教授

広嶋 進 ノートルダム清心女子大学文学部助教授

藤澤 毅 広島文教女子大学講師

山本 秀樹 岡山大学文学部講師

余田 充 四国大学文学部教授

〔九州地区〕

今井 明 福岡女子大学文学部教授

大胡 太郎 琉球大学法文学部助教授

嘉手刈 千鶴子 沖縄国際大学文学部教授

辛島 正雄 九州大学文学部助教授

黒木 香 活水女子大学文学部助教授

櫻井 陽子 熊本大学教育学部助教授

園田 豊 北九州大学文学部助教授

西田 耕三 熊本大学文学部教授

国文学研究情報研究専門員

任期 平成9年4月1日～平成10年3月31日

青柳 隆志 東京成徳短期大学助教授

安藤 宏 東京大学大学院人文社会系研究科助教授

小川 靖彦 和光女子大学文学部講師

刑部 久 秋草学園短期大学助教授  
 蒲原 義明 神奈川県立磯子工業高等学校教諭  
 佐々木 孝 浩 慶應義塾大学附属研究所道文庫助手  
 鈴木 豊 文京女子短期大学助教授  
 竹本 幹夫 早稲田大学文学部教授  
 谷口 孝介 筑波大学文学部言語学系講師  
 鉄野 昌弘 東京女子大学文学部助教授  
 寺井 正憲 千葉大学教育学部助教授  
 藤田 洋治 東京成徳短期大学助教授  
 宮崎 修多 成城大学文学部助教授  
 山口 明穂 中央大学文学部教授  
 原本 テキストデータベース監修員  
 任期 平成9年4月1日～平成10年3月31日  
 伊井 春樹 大阪大学文学部教授  
 伊藤 一男 北海道教育大学教育学部旭川校助教授  
 伊藤 鉄也 大阪明浄女子短期大学助教授  
 今西 裕一郎 九州大学文学部教授  
 倉田 実 大妻女子大学短期大学部教授  
 後藤 祥子 日本女子大学文学部教授  
 渋谷 栄一 高千穂商科大学商学部教授  
 清水 婦久子 帝塚山短期大学助教授  
 田坂 憲二 福岡女子大学文学部教授  
 吉海 直人 同志社女子大学文学部助教授  
 吉川 洋介 愛知県立女子短期大学助教授  
 共同研究員  
 任期 平成9年4月1日～平成10年3月31日  
 課題名 (近世上方読本年表作成のための基礎研究)  
 服部 仁 同朋大学文学部教授  
 近衛 典子 昭和学院短期大学助教授  
 福田 安典 甲子園短期大学講師  
 山本 卓 関西大学文学部助教授

課題名 (「先代御便覧」(宮内庁書陵部蔵)の研究)  
 和田 道子 中京大学教養部教授  
 赤松 万里 鳴門教育大学学校教育学部助教授  
 大石 房子 放送大学非常勤講師  
 坂内 泰子 実践女子大学文学部非常勤講師  
 課題名 (平安鎌倉時代の「詩題」に関する基礎的研究)  
 渡邊 秀夫 信州大学文学部教授  
 本間 洋一 同志社女子大学文学部教授  
 三木 雅博 梅花女子大学文学部教授  
 柳 澤良一 金沢学院大学文学部教授  
 課題名 (「冥報記」をめぐる比較文学的研究と漢文訓読文献の電子化の研究)  
 馬 測和夫 東京成徳短期大学教授  
 青柳 隆志 東京成徳短期大学助教授  
 稲垣 泰一 筑波大学文学部言語学系教授  
 稲葉 二柄 大妻女子大学短期大学部教授  
 黒田 佳世 中京大学教養部非常勤講師  
 滋野 雅民 山形大学教育学部教授  
 田口 和夫 文教大学文学部教授  
 中野 猛 都留文科科大学文学部教授  
 渡邊 信和 同朋大学仏教文化研究所研究室長  
 課題名 (「うつつ物語」の基礎的研究)  
 室城 秀之 白百合女子大学文学部教授  
 上原 作和 跡見学園女子大学文学部兼任講師  
 大井田 晴彦 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程  
 佐藤 信一 白百合女子大学文学部助教授  
 正道寺 康子 新潟大学大学院社会文化研究科博士課程  
 中山 陽子 恵泉女子短期大学英文学部非常勤講師  
 宮谷 聡美 早稲田大学大学院文学研究科研究生  
 課題名 (中世における源氏物語の注釈)

野村 精一 実践女子大学文学部教授  
 奥田 勲 聖心女子大学文学部教授  
 横井 孝 静岡大学教育学部教授  
 上野 英子 実践女子大学文学部資料研究所講師  
 武井 和人 埼玉大学教育学部教授  
 エスベランサ・  
 ラミレス・クリステンセン 国文学研究資料館員教授  
 課題名 (中世・近世説話にみる僧・俗像の研究)  
 山田 昭全 大正大学文学部教授  
 堤 邦彦 京都精華大学芸術学部教授  
 富士 昭雄 駒沢大学文学部教授  
 後小路 薫 別府大学文学部助教授  
 広田 哲通 大阪女子大学文学部教授  
 ハルトムート・  
 ロータモンド 国文学研究資料館員教授

### 国文学研究資料館名誉教授の称号授与

国文学研究資料館名誉教授称号授与規程の規定に基づき、平成九年七月四日付けで、次の方に称号が授与された。

○ 佐竹昭廣 昭和二十年十月十九日生  
 平成五年四月一日から平成九年三月三十一日まで国文学研究資料館長として在職。



## 彙報

委員会日誌

平成9年

3月18日 大学院教育協力委員

会(第二回)

3月25日 図書資料委員会(第

二回)

4月11日 原本テキストデー

ベース監修員会議

(第一回)

5月13日 図書資料委員会(第

一回)

5月20日 国文学文献資料収集

計画委員会(第一回)

5月23日 原本テキストデー

ベース委員会(第一

回)

6月3日 国文学文献資料調査

員会議(総会)

6月5日 大学院教育協力委員

会(第一回)

6月5日 将来構想委員会(第

一回)

6月24日 共同研究委員会(第

一回)

7月8日 将来構想委員会(第

二回)

7月22日 文献目録委員会

8月5日 国際日本文学研究集

会委員会(第一回)

運営協議委員会の開催について

本年度第一回運営協議委員会が平

成九年六月二十六日(木)に開催

され、議事は、国文学研究資料館

名誉教授の候補者、教官人事、管

理運営の概況、平成八年度事業報

告、平成十年度概算要求について

協議が行われた。

評議員会の開催について

本年度第一回評議員会が平成九

年七月四日(金)に開催され、議

事は、国文学研究資料館名誉教授

の承認、管理運営の概況、平成八

年度事業報告、平成十年度概算要

求について評議が行われた。

外国出張

安藤 正人

渡航先 連合王国

目的 第二次世界大戦時及

び戦後の日本植民地

及び占領地における

記録史料の取扱いの

研究

期 間

平成9年4月4日、

平成9年10月5日

原 正一郎

渡航先 アメリカ合衆国

目的 学会参加及び人文学

系コンピュータイン

グについてのレビュー

期 間

平成9年6月1日、

平成9年6月8日

森 安彦

高木 俊輔

青木 睦

福田 千鶴

渡航先

ドイツ連邦共和国

目的 在欧日本史料の所在

と現状に関する調査

期 間

平成9年6月15日、

平成9年6月29日

原 正一郎

渡航先

アメリカ合衆国

目的 古典原本用光学的文

字認識装置に関する

開発研究についての

レビュー

期 間

平成9年6月22日、

平成9年6月29日

北村 啓子

渡航先

アメリカ合衆国

目的 多数の古文書異本を

比較考証するための

マルチメディアシス

テムの開発の研究ア

プローチのレビュー

期 間

平成9年7月21日、

平成9年7月29日

海外研修旅行

鈴木 淳

渡航先

アメリカ合衆国

目的 カリフォルニア州立

大学ロサンゼルス

校所蔵日本古典籍の

調整

期 間

平成9年7月8日、

平成9年7月18日

訂正

第48号の記事に誤りがありまし

たので、おわびして訂正させて頂

きます。

外国出張渡航先国名

誤 チェコスロバキア社会主義共

和国

正 チェコ共和国

誤 ポーランド人民共和国

正 ポーランド共和国

誤 ハンガリー人民共和国

正 ハンガリー共和国

## 利用者へのお知らせ

◆「国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録一九九六年」(第二〇冊)刊行のご案内

収集したマイクロ資料のうち、平成八年度に整理が終了した四、九五二点(二五所蔵者分)をとりまとめ冊子体にしたものです。収録所蔵者名、文庫番号は次のとおりです。今回新たに収録された五所蔵者には\*印を付けました。

文庫No. 所蔵者

16 北海学園大学附属図書館

(北駕文庫)

48 名古屋市蓬左文庫

49 岩国徴古館

214 西尾市岩瀬文庫

222 三原市立図書館

224 熊本大学附属図書館(北岡文庫)

225 University of California, Berkeley

238 法政大学能楽研究所(鴻山文庫)

257 大和文華館

272 弘前市立図書館

298 茨城県立歴史館

299 中京大学図書館

303 金沢市立玉川図書館(藤本文庫)

305 愛知県立大学附属図書館

308 柿衛文庫

312 正教蔵文庫

320 東京芸術大学附属図書館(脇本文庫)

322 \* 四国大学附属図書館

324 新潟大学附属図書館(佐野文庫)

326 \* 名古屋博物館

327 \* 京都大学附属図書館(平松家本)

オ 8 温泉寺

セ 1 \* 善通寺

ハ 3 \* 初瀬川文庫

ユ 1 祐徳稲荷神社(中川文庫)

◆新指定の貴重書、特別コレクション

本年三月、次のとおり新たに貴重書五点と、特別コレクション一文庫が加わりました。これにより貴重書は全部で八十六点、特別コレクションは六コレクションとなりました。

◆貴重書

・源氏大鏡(写・三冊・江戸初期)

・宗安小歌集(久我有庵三休写・室町期)

・百万塔陀羅尼(刊・天平宝字・宝龜頃)

・和漢朗詠集註(写・上巻のみ・室町期)

・春日懷紙(中臣祐定写・二十五枚・鎌倉初期)

◆特別コレクション

・臼杵藩吉田家歴代時文(写・三十一軸)

◆複写料金改正のお知らせ

本年四月から、消費税率引き上げに伴い、文献複写料金を一部改正しました。改正したのはマイクロフィルム方式の印画紙による引伸(紙焼写真作製)料金のうち左記の大きさのものです。

(一枚当たり)

A 5判 六〇円→六五円

B 5判 九〇円→九五円

B 4判 一七五円→一八〇円

◆利用案内

利用資格

一、学校の教員及び調査研究機関の研究員

二、大学及び大学院の学生

三、その他館長が適当と認める者

に該当する者。

学術研究のために当館の資料を必要とし、かつ、次のいずれかに該当する者。

一、学校の教員及び調査研究機関の研究員

二、大学及び大学院の学生

三、その他館長が適当と認める者

に該当する者。

学術研究のために当館の資料を必要とし、かつ、次のいずれかに該当する者。

一、学校の教員及び調査研究機関の研究員

二、大学及び大学院の学生

三、その他館長が適当と認める者

閲覧時間

九時～十七時

資料請求受付時間

九時半～十二時、十三時～十六時半

文献複写受付時間

九時半～十五時半

休室日

日曜日、土曜日、祝日、振替休日、毎月末日(日、土の場合は直前の金曜日)、四月末～五月上旬の五日間、十二月二十七日、一月五日(ただし、平成九年度は十二月二十六日)、三月二十五日～三月三十一日、その他

来館でない場合の利用方法

所属大学の図書館等を通して申し込めば文献複写及び貸出サービス(資料は限定されます。)が受けられます。また、個人が郵送で文献複写の申し込みをすることが出来ます。詳細は参考普及係にお問い合わせください。

★臨時休室のお知らせ★

平成九年十二月二十六日(金)は休室します。

— 18 —

## 【教官】

## 人事異動 (平成9年3月～平成9年8月)

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
9. 3. 31	佐 竹 昭 廣	〔任期満了〕	国文学研究資料館長
9. 4. 1	松 野 陽 一	〔昇任〕 国文学研究資料館長	文献資料部教授・企画調整官
〃	山 崎 誠	文献資料部教授 〔採用〕	文献資料部助教授
〃	浅 田 徹	文献資料部助教授	(白百合女子大学文学部教授)
〃	外村南都子	文献資料部客員教授(10.3.31 まで)	(日本女子大学文学部教授)
〃	後 藤 祥 子	研究情報部客員教授(10.3.31 まで)	(日本女子大学文学部教授)
〃	水 村 真	史料館客員教授(10.3.31 まで)	
〃	越 後 敬 子	文献資料部非常勤研究員(10.3.31 まで)	
〃	杉田まゆ子	研究情報部非常勤研究員(10.3.31 まで)	
〃	森 本 祥 子	史料館非常勤研究員(10.3.31 まで)	
9. 7. 14	ハルトムット・ ローモント	文献資料部客員教授(10.1.31 まで) 〔併任〕	(フランス国立高等研究院教授)
9. 4. 1	岡 雅 彦	企画調整官	(文献資料部教授)
〃	新 藤 協 三	文献資料部長	(文献資料部教授)
〃	山 崎 誠	文献資料部第二文献資料室長	(文献資料部教授)
〃	新 藤 協 三	文献資料部第四文献資料室長	(文献資料部教授)
〃	新 藤 協 三	文献資料部第五文献資料室長	(文献資料部教授)
〃	新 藤 協 三	文献資料部国際研究室長	(文献資料部教授)
〃	久保田啓一	文献資料部助教授(9.9.30 まで)	(広島大学文学部助教授)
〃	荒 木 浩	研究情報部助教授(10.3.31 まで)	(大阪大学文学部助教授)
〃	蔵 持 重 裕	史料館助教授(10.3.31 まで)	(滋賀大学教育学部助教授)

## 【事務系職員】

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
9. 3. 31	伊 藤 雅 子	〔辞職〕	整理閲覧部情報サービス室情報サービス係
9. 4. 1	石 川 護	〔転出〕 文部省大臣官房政策課情報処理室室長補佐	管理部庶務課長
〃	歌 野 博	北陸先端科学技術大学院大学研究協力部学術情報課長	管理部庶務課課長補佐 (3/16 情報サービス室情報整備係長から昇任)
〃	神 山 忍	統計数理研究所管理部庶務課課長補佐	管理部庶務課課長補佐
〃	高 橋 努	東京大学海洋研究所総務課図書掛長	整理閲覧部情報サービス室情報管理係長
〃	村 山 敏 規	東京学芸大学教育学部第四庶務係庶務主任	管理部庶務課人事係人事主任
〃	石 田 さ よ	千葉大学(文部省学術国際局国際学術課併任)	管理部庶務課共同利用係
〃	前 田 輝 伸	横浜国立大学工学部用度係	管理部会計課用度係
〃	藁谷美枝子	東京大学文学部図書第一掛 〔転入〕	史料館情報閲覧室
9. 4. 1	安 島 民 夫	管理部庶務課長	国立教育会館学校教育研究所学校教育研修課長
〃	藤 山 由 弘	管理部庶務課課長補佐	国立国語研究所庶務部庶務課課長補佐
〃	野 口 真 理 子	整理閲覧部情報サービス室情報管理係長	東京大学附属図書館情報管理課選書掛
〃	田 口 琢	管理部庶務課人事係人事主任	東京学芸大学庶務部庶務課広報調査係
〃	伊 藤 陽 子	管理部会計課経理係経理主任	横浜国立大学経済学部大学院係大学院主任
〃	宮 腰 香 代 子	管理部庶務課共同利用係	東京国立文化財研究所庶務課庶務係
〃	岩 松 浩 子	整理閲覧部情報サービス室受入係	東京水産大学附属図書館情報サービス係
〃	喜 多 妙 子	整理閲覧部情報サービス室情報サービス係	九州大学附属図書館医学分館受入目録係
〃	吉 岡 美 子	史料館情報閲覧室 〔館内異動〕	東京大学史料編纂所史料掛
9. 4. 1	関 口 照 子	管理部庶務課専門職員	管理部庶務課事業係長
〃	竹之内重雄	管理部庶務課専門職員	管理部庶務課事業係事業主任
〃	和 田 玲 子	整理閲覧部情報サービス室情報整備係長	整理閲覧部情報サービス室参考普及係長
〃	中 村 ス ミ 子	整理閲覧部情報サービス室参考普及係長	整理閲覧部情報サービス室受入係
〃	野 田 佳 孝	管理部会計課用度係	管理部会計課経理係
〃	増 井 ゆ う 子	整理閲覧部情報サービス室情報整備係	整理閲覧部情報サービス室情報管理係

# 平成9年度 秋季学会

①事務局 ②学会開催日 ③会場

## 解釈学会

①〒170豊島区北大塚3-29-2教育出版センター内 03-5394-1203 ②8月21日 ③国文学研究資料館

## 歌舞伎学会

①〒169-50新宿区西早稲田1-6-1早稲田大学演劇博物館内 03-3203-4141内71-5218 ②12月13・14日 ③同志社大学明徳館

## 訓点語学会

①〒155世田谷区代沢1-20-10 ②10月18日 ③山形大学教養学部

## 芸能史研究会

①〒602京都市上京区河原町通荒神口下る上生洲町221トキワビル303号 075-251-2371 ②12月6日 ③早稲田大学文学部

## 計量国語学会

①〒167 杉並区善福寺2東京女子大学3号館118号室内 03-3395-1211内339 ②9月27日 ③都立大学

## 国語学会

①〒113文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国語研究室内03-3812-2111 ①事務取扱〒113文京区本郷1-13-7日吉ハイツ404 03-5802-0615 ②10月18・19日 ③山形市中央公民館ホール・山形大学

## 上代文学会

①〒180武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

成蹊大学文学部遠藤宏研究室内

0422-37-3647 ②11月8・9日 ③早稲田大学他

## 昭和文学会

①〒101 千代田区猿楽町2-2-5 笠間書院内 03-3295-1331 ②11月1日

## ③法政大学

## 全国大学国語教育学会

①〒739東広島市鏡山1-1-2 広島大学教育学部国語教育研究室内 0824-24-6790 ②11月14・15日 ③大阪教育大学

## 全国大学国語国文学会

①〒101千代田区猿楽町2-2-6 畑山第1ビル(株)おうふう気付 03-3294-0857 ②10月25・26日 ③同志社女子大学

## 中古文学会

①〒175 板橋区高島平1-9-1 大東文化大学文学部日本文学科内 03-5399-7333 ②10月11・12日 ③宮城学院女子大学

## 中世文学会

①〒175-80板橋区高島平1-9-1 大東文化大学文学部日本文学科関口研究室 03-3935-1113内3127 ②10月18～20日 ③広島女子大学

## 日本演劇学会

①〒169-50新宿区西早稲田1-6-1早稲田大学演劇博物館内 03-3203-4141内71-5218 ②10月25・26日 ③南山大学

## 日本音声学会

①〒101千代田区神田猿楽町1-3-1 03-3292-1718 ②9月20・21日 ③関西外国語大学

## 日本歌謡学会

①〒150渋谷区東4-10-28 國學院大学文学部日本文学第七研究室内 03-5466-0221 ②9月20・21日 ③岩手県ヒロノ福祉パーク・江刺市総合コミュニティセンター

## 日本近世文学会

①〒191野市大坂上4-1-1 実践女子大学文学部国文学科研究室内 0425-85-0316 ②11月8・9日 ③天理大学

## 日本近代文学会

①〒171 豊島区西池袋3-34-1 立教大学文学部日本文学科第二研究室

内03-3985-2504 事務取扱〒113 文京区本駒込5-16-9学会センターC21 日本学会事務センター内03-5814-5810 ②10月25・26日 ③群馬県立女子大学

## 社団法人 日本語教育学会

①〒107 港区赤坂1-8-10第9 興和ビル内 03-3584-4872～3 ②10月4・5日 ③アステールプラザ(広島市)・広島大学

## 日本児童文学学会

①〒474 愛知県大府市横根町名高山55中京女子大学棚橋美代子研究室内 0562-46-1291 ②11月8～10日 ③梅花大学

## 日本文学協会

①〒170豊島区南大塚2-17-10 03-3941-2740 ②11月8・9日 ③上智大学

## 日本文学風土学会

①〒359所沢市泉町1789 秋草学園短期大学国文学科研究室 0429-25-1111 ②11月15日 ③専修大学

## 日本文体論学会

①〒101台東区下谷1-5-34三修社内 03-3842-1711 ②11月14・15日 ③関西大学

## 日本方言研究会

①〒115北区西ヶ丘3-9-14 国立国語研究所気付日本方言研究会幹事 03-5993-7630 ②10月17日 ③山形大学

## 俳文学会

①〒162 新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学部雲英末雄研究室内 03-5286-3712 ②10月10～12日 ③梅光女学院大学

## 萬葉学会

①〒558 大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学文学部国語国文学研究室内 06-605-2413・2414 ②10月11～14日 ③皇学館大学

## 和歌文学会

①〒112 文京区白山5-28-20 東洋大学文学部国文学研究室内 03-3945-7367 ②9月27～29日③藤女子大学

## 和漢比較文学会

①〒162 新宿区戸山1-24-1早稲田大学文学部 ②10月25・26日 ③大阪大学

国文学研究資料館報 第四十九号  
平成九年九月発行  
編集・発行者  
国文学研究資料館  
東京都品川区豊町一・一六・一〇  
郵便番号一四一  
電話(三七八五)七二三一  
FAX(三七八五)七〇五一  
印刷所 有限会社スミタ